

# 塩ビ鋼板塗替え工法 カタログ

【第3版】



専用プライマーが強力に密着。  
汚れにくい塩ビ鋼板を実現し、  
長期間、耐久性と美観を維持します。

# 塩ビ鋼板の耐久性維持と汚れや変色を防止。

建築物の屋根や外装材として、広く用いられている「塩化ビニルフィルムラミネート鋼板」(通称:塩ビ鋼板)は、この塩化ビニルフィルム中に含まれる可塑剤などの影響により、これまでの一般的な塗料では十分な密着性が得られず、塗装後も汚れが発生するなど、塗替えが困難とされてきました。

「塩ビ鋼板塗替え工法」は、この課題を解決し、塩ビ鋼板の耐久性維持と美観を保ちます。



塩ビ被覆に可塑剤が多く含まれており、また劣化が進むとチョーキング層も厚く緻密になるため、特殊なプライマーが必要になります。

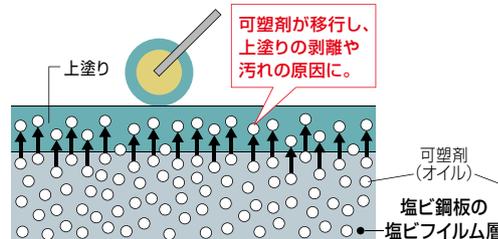
## 特長

### 1 耐久性の維持と長期美観性

従来工法では、塗装後、早くても数か月から塗膜表面がベタ付き、汚れが付着したり変色したりすることが多く見られました。「塩ビ鋼板塗替え工法」では特殊プライマーを施工することで塩ビフィルム中の可塑剤などの移行を止め、塩ビ鋼板の耐久性を維持し、長期的な美観を保ちます。

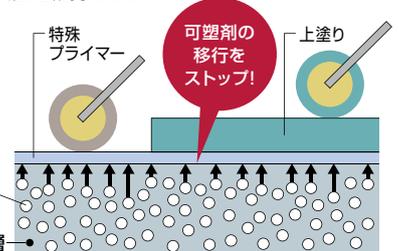
#### 従来の塗装

塗装しても塩ビフィルム中の可塑剤が塗膜に移行し、上塗りの剥離や汚れの原因になります。塩ビ鋼板と塗替えた塗膜の耐久性も低下します。



#### 塩ビ鋼板塗替え工法

塩ビフィルムからの可塑剤の移行を止め、汚れを防止します。また、塩ビ鋼板と塗替え塗膜の耐久性を維持します。

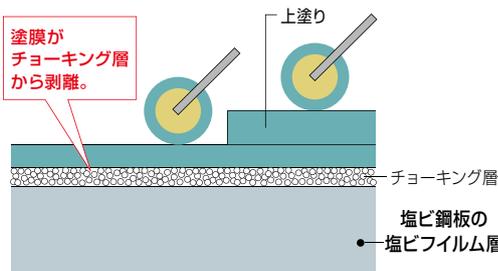


### 2 塗膜の高密着性

「塩ビ鋼板塗替え工法」で使用する専用プライマーは、塩ビ材質との相性が良く、チョーキング層に含浸し溶解することで塩ビフィルムを復元し、プライマーと強力に混合・固化。塩ビフィルム中の可塑剤移行を止めます。このため既存の塩ビフィルムとプライマーは長期的に密着し、塗膜の剥離を防止します。

#### 従来の塗装

チョーキング層の上に塗装しても、チョーキング層から剥離してしまいます。



#### 塩ビ鋼板塗替え工法

チョーキング層に含浸・溶解し、塩ビフィルムを復元。プライマーと強力に混合・固化し、塩ビフィルム中の可塑剤の移行を防ぎます。



## 荷姿

- 塩ビ鋼板用プライマー A材 ……1.2kg
- 塩ビ鋼板用プライマー B材 ……0.6kg

## 適用上塗

● 色相については、各種屋根用標準色見本帳をご参照ください。

#### 【一般塗料】

- リリーフNADウレタンN
- リリーフNADシリコン
- リリーフNADフッ素

#### ■ 標準色 23色

「ニットクの屋根用塗料シリーズ」標準色見本帳をご参照ください。

#### 【遮熱塗料】

- パラサーモU
- パラサーモSi
- パラサーモF

#### ■ 標準色

- パラサーモU: 15色
  - パラサーモSi・パラサーモF: 22色
- 「ニットクの屋根用遮熱塗料パラサーモシリーズ」標準色見本帳をご参照ください。

※上記の他、スーパーパラサーモシリコンもご使用可能です。



## 標準塗装仕様

工程		材料の調合 (重量比)	塗り回数	施工方法	可使時間 (23℃)	使用量	1回当たりの 塗り面積	施工間隔 (23℃)
素地調整		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高圧水洗浄(10~15MPa)やワイヤーブラシなどで表面の塵、ホコリ類を完全に除去してください。</li> <li>● 下地のチョーキング層は高圧水洗浄で除去してください。チョーキングが激しい場合、洗浄ができない場合はマジックロンなどでチョーキング層を除去してください。</li> <li>● 水洗い後は1日以上乾燥させてください。雨や露などで濡れている場合も十分に乾燥させてから施工してください。</li> </ul>						
下塗り		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 塩ビ鋼板用プライマー A材 .....12kg</li> <li>● " " B材 .....0.6kg</li> </ul> (原液のまま使用してください)	1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ローラー</li> <li>● 刷毛</li> </ul>	—	0.1~0.12 kg/m <sup>2</sup> /回	105~126 m <sup>2</sup> /セット	2時間以上 6時間以内 (23℃)
上塗り	フッ素樹脂系	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リリーフNADフッ素 A液 ..... 14kg</li> <li>● リリーフNADフッ素 B液 ..... 2kg</li> <li>● NT塗料用シンナーA ..... 0~1kg</li> </ul>	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ローラー</li> <li>● 刷毛</li> <li>● スプレー</li> </ul>	6時間以内	0.13~0.16 kg/m <sup>2</sup> /回	100~123 m <sup>2</sup> /セット	2時間以上 72時間以内
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● パラサーモF A液 ..... 14kg</li> <li>● パラサーモF B液 ..... 2kg</li> <li>● NT塗料用シンナーA ..... 0~1kg</li> </ul>						3時間以上 72時間以内
	シリコン樹脂系	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リリーフNADシリコン A液 ..... 14kg</li> <li>● リリーフNADシリコン B液 ..... 2kg</li> <li>● NT塗料用シンナーA ..... 0~1kg</li> </ul>						2時間以上 72時間以内
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● パラサーモSi A液 ..... 14kg</li> <li>● パラサーモSi B液 ..... 2kg</li> <li>● NT塗料用シンナーA ..... 0~1kg</li> </ul>						3時間以上 72時間以内
	ウレタン樹脂系	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リリーフNADウレタンN A液 ..... 14kg</li> <li>● リリーフNADウレタンN B液 ..... 2kg</li> <li>● NT塗料用シンナーA ..... 0~1kg</li> </ul>						2時間以上 72時間以内
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● パラサーモU A液 ..... 14kg</li> <li>● パラサーモU B液 ..... 2kg</li> <li>● NT塗料用シンナーA ..... 0~1kg</li> </ul>						3時間以上 72時間以内

右のいずれかを必ず選択してください。

- 上記上塗り各種をスプレー施工する場合の希釈は16kgセットに対して0~2kgとしてください。
- 上塗りの各塗料は夏場、暑さで可使時間が短くなり「2時間」程度になります。夏場はA液とB液の攪拌後、必ず「2時間以内」に使い切るようにしてください。
- リリーフNADシリコン、パラサーモSi、リリーフNADフッ素、パラサーモFは、35℃以上の場合、猛暑型B液をご使用ください。

### 【塩ビ鋼板塗替え工法の施工上の注意事項】

- 下塗りはローラーでしごくように施工してください。しごいて施工することでチョーキングを溶解・復元し、プライマーに混合させます。
- 下塗りは厚く塗りすぎないように使用量を厳守してください。塗料のたれ、たまりは剥離の原因となります。
- 下塗りと上塗り1回目までは同日中に施工してください。施工間隔を延長しますと上塗りとの密着が悪くなります。
- 下塗りと上塗りとの施工間隔を厳守してください。特に夏場の南面は熱くなり硬化が進みやすくなるため、施工間隔が短くなります。外気温30℃以上の場合、プライマー施工後1時間以内に上塗りを施工してください。
- 夏場の高温多湿の環境下では、下塗りは、B材を混合しなくても、A材だけでも開封後は短時間で硬化(ゲル化)します。そのため開封後はすみやかにB材を混合し、ご使用ください。



## 塩ビ鋼板塗替え工法の施工上の注意事項

(標準仕様書下の注意事項も重要ですので必ずお読みください)

### ■下地調整について

- 下地のチョーキング層は高圧水洗浄で除去してください。チョーキングが激しい場合、洗浄ができない場合はマジックロンなどでチョーキング層を除去してください。水洗浄では、周辺の状況をよく確認し十分に養生を行ってください。
- 屋根表面を水洗いした後や雨や露、霜で濡れているときは十分に乾燥させてから施工してください。

- 水洗い後は1日以上乾燥させてください。雨や露などで濡れている場合も十分に乾燥させてから施工してください。
- 油分が付着している場合は溶剤拭きを行ってください。
- 塩ビフィルム層にワレ、ハガレなどのある場合は、3種ケレンによりサビや浮き膜を除去してください。
- 塩ビフィルム層がなくなっている部分やサビがある箇所は、

ワイヤーブラシ、サンドペーパーなどで表面をきれいにし、脱脂後、時間をあけずにエポラオールプライマーで処理してください。

- 2回目の改修工事の場合は、最寄りの営業所にお問い合わせください。

### ■施工について

- ①本製品は標準仕様に従って施工してください。標準仕様はあくまで「標準」的な仕様であり、下地の状態、形状、施工条件、気象条件などにより使用量や使用時間などに多少の幅が生じることがあります。
- ②施工当日から施工後翌日までに降雨、降雪、降霜が予想される場合や気温が5℃以下、湿度80%以上での施工は避けてください。塗膜が未乾燥状態で降雨や夜露などにあたると不具合の原因につながります。特に冬季は乾燥に時間がかかりますので、乾燥までの時間を考慮して作業を終了してください。気温が5℃以上でも、気温が低い場合は塗膜の乾燥に時間がかかりますので施工間隔が変わります。
- ③山間部、あるいは夜露の早く降りる地域では、早めに施工を終了し、十分に乾燥時間を確保してください。光沢低下、フクレ、割れ、ハガレの原因になります。
- ④塗料は必ず標準仕様様の材料の配合比で調合し、十分に攪拌してから施工してください。また、他の塗料との混合やアルコール、水の混入は絶対に行わないでください。
- ⑤塗料を使用する前や小分けする場合には、十分に攪拌して均一な状態にしてから計量し、ご使用ください。パラサーモシリーズは特殊な顔料を使用しているため、一般屋根用塗料と比較して塗料表面に色が浮きやすい傾向にあります。
- ⑥「リリーフNADウレタンN」「リリーフNADシリコン」「リリーフNADフッ素」「パラサーモ」「パラサーモS」「パラサーモF」「エポラオールプライマー」「エポラ#1プライマーN」の希釈は「NT塗料用シンナーA」をご使用ください。
- ⑦塗料の希釈率は標準仕様様の範囲内で試験施工などにより決定し、同一条件で施工してください。希釈率は色や施工条件により、変化しますのでご了承ください。
- ⑧上塗り塗料の色相によっては2回塗りでは隠れない場合

- があります。その場合は塗り回数を増やしてください。
- ⑨標準仕様様の規定の使用量が塗られていない場合、本来の塗膜性能が発現しないことがありますので規定量を守って施工してください。早期の耐候性低下や変色、剥離などにつながります。
  - ⑩上塗りの希釈量や材料の使用量が多すぎたり、少なすぎたりしても、色相が変化して見えることがあります。特に上塗り1回では使用量が足りず、色相が変化して見えます。同様に希釈剤の希釈量や使用量が施工部位により変わると色相が変化して見えることがあります。
  - ⑪夏季、炎天下でエアレスホース内に塗料を入れたまま放置しないでください。詰まりの原因となります。
  - ⑫施工間隔(塗り重ね時間)を守ってください。施工間隔は気象条件などにより変わります。各工程において、硬化が不十分な状態で施工すると再溶解やリフティング(塗膜のチヂリ)が発生したり、施工間隔を過ぎると付着性が悪くなったりします。
  - ⑬冬季には、上塗り(リリーフNADウレタンN、パラサーモUを除く)の硬化を速めるために弱溶剤トップ硬化促進剤を使用することも可能です。弱溶剤トップ硬化促進剤を使用すると可長時間が短くなります。ただし、攪拌不足の場合、塗膜の硬化が場所によって異なり不具合が発生することがあります。弱溶剤トップ硬化促進剤は、次工程までの施工間隔を短縮する目的で使用しないでください。
  - ⑭本カタログの標準仕様様では上塗りの可長時間を「6時間以内(23℃)」としていますが、夏季は暑さで可長時間が短くなり、2時間程度になることもあります。夏季はA液、B液の攪拌後、必ず2時間以内に使い切るようにしてください(35℃以上の場合は「猛暑型B液」をご使用ください)。
  - ⑮塩ビ鋼板の山部分や折り曲げ部分などは塗料がつきにくい

ため、十分な膜厚を確保することができない可能性があります。先に拾い塗りをするなどして全体的に均一な膜厚になるよう施工してください。

- ⑯ローラーや刷毛、スプレーなど施工方法が混在する場合、色相や仕上りに差が出る場合があります。
- ⑰ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目の方向により色や仕上りが異なって見える場合があります。
- ⑱標準色以外をご指定された場合、褪色が早い場合や、塗膜性能が低下する可能性があります。
- ⑲パラサーモシリーズは、特殊顔料を使用していますので、経年劣化による褪色の傾向が一般塗料と異なる場合があります。経年で若干、赤味を帯びることがあります。
- ⑳シーリング面への施工は極力避けてください。塗膜の汚れや割れの原因となります。
- ㉑使用器具は、使用后すみやかにラッカーシンナー(もしくはウレタンシンナー、アクリルシンナー)で洗浄してください。
- ㉒施工後の塗膜は滑りやすくなりますので、作業は充分注意して行ってください。施工後は、滑雪性がよくなる場合があります。積雪時にまとまった雪が落ちる可能性がありますのでご注意ください。
- ㉓詳細は「スーパーパラサーモシリコン標準色見本帳」「ニットの屋根用遮熱塗料パラサーモシリーズ標準色見本帳」「ニットの屋根用塗料シリーズ標準色見本帳」「エポラオールプライマー」などの個別カタログをよくお読みになり正しくご使用ください。ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- ㉔塗料は用途・用法を守り、上述カタログの仕様や注意事項をよくお読みになり正しくご使用ください。

### ■パラサーモの遮熱性能について

- 遮熱性能は、明度と色相により変わります。既存塗膜の色が塗り替え予定の色より薄い場合、遮熱効果が得られない場合があります。詳しくは、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 建物の形状、構造、基材(素材)や既存塗膜の明度と色相によっては十分な遮熱効果が得られず室内温度低減効果が期待できない場合があります。詳しくは、最寄りの営業所にお問

い合わせください。

- 一般屋根用塗料とニットの屋根用遮熱塗料パラサーモシリーズの日射反射率の差は、濃色の同色であると大きくなる傾向があります。色相により、一部例外があるため、最寄りの営業所にお問合せください。
- 遮熱効果は、塗膜上に汚れが堆積すると遮熱性能が低下します。他にも立地環境や建物の屋根材の種類、屋根勾配、構造

などが起因する場合があります。詳しくは、最寄りの営業所にお問い合わせください。

- 遮熱塗料の全面施工と部分施工では遮熱効果が異なります。部分施工では未塗装部分が影響し遮熱効果が得られない可能性がありますので、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所にお問い合わせください。

### ■取り扱い上の注意事項(よく読んでご使用ください)

- 火気のあるところでは、絶対に使用しないでください。
- 万一、火災が発生した場合は、ABC粉末消火器など適切な手段を用いてください。水は使用しないでください。
- 施工中、乾燥中ともに換気を充分に行い、ミストや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 安全衛生上の観点から、取り扱い中は皮膚に触れないように、有機溶剤の蒸気を吸わないよう必要に応じて有機ガス用防毒マスク、手袋および前掛けなどの保護具を着用してください。
- 取り扱い作業中、容器がこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は直ちに布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 材料の付着した布やウエスなどは自然発火や引火の危険性があるため、廃棄するまで水につけておいてください。
- 容器(取っ手を含む)はつり上げないでください。止むを得ずつり上げる際には、適切なつり具で垂直に持ち上げ、落下に充分注意してください。偏荷重になると取っ手が外れ、落下する危険性があります。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗いおよびうがいを充分に行ってください。
- 目に入った場合は多量の水で少なくとも5分以上洗い、すみやかに医師の診察を受けてください。

- 誤って口に入った場合は、口を水でよくすすぎ、すみやかに医師の手当てを受けてください。飲み込んだ場合は直ちに医師の診察を受けてください。
- 材料が皮膚に付着した場合は、多量の水で洗い流したのち中性石鹸と水で充分に洗ってください。痛みや外観変化があるときは医師の診察を受けてください。作業着などに付着した場合は、すみやかに着替えを行ってください。
- エポキシ樹脂系塗料は材質により皮膚障害などの感作を受ける場合があります。医師の指導を受け必要な措置を講じてください。
- 皮膚障害、呼吸障害がみられる場合は、医師の診断を受けてください。
- 蒸気やガスを吸い込んで気分が悪くなった場合は空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 本製品の保管は必ずフタをし、雨露や直射日光の当たらない換気の良い暗所に保管してください。現場で材料を保管する場合は、直射日光や雨露が当たらない、風通しの良い涼しい場所で保管してください。特に夏季に車内での保管や高温になる場所での保管は危険ですので避けてください。
- 塩ビ鋼板用プライマー、各種上塗りのB液は水分と反応し固まります。保管中や休憩中は必ずフタをしてください。また、

- 缶から出して使用した塗料は、元の缶に戻したり、未使用の塗料と混合して保管しないようにしてください。保管中に固まる場合があります。
- 子供の手の届かないところに保管してください。
- 中身を使いきってから廃棄してください。また、廃液・汚泥などは関係法規に基づき、自社で適正に処理するか、産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。
- 本製品は環境に配慮した材料を用いたものではないですが、ご使用いただいたすべての人の健康状態を保証するものではありません。
- 本製品は、揮発性の化学物質(有機溶剤など)を含有し、臭気が発生します。あらかじめ元請や施工、近隣住民への説明を行い、了解を得てください。臭気が周辺にある物に付着する場合があります。付着が予想されるものは、施工箇所からできるだけ遠ざけ、屋内に揮発成分が流入しないように養生を行ってください。また、化学物質過敏症やアレルギー体質の方がいる場合には本製品との接触や施工を避けてください。
- 本製品は危険物です。本製品の取り扱い並びに輸送及び保管については、労働安全衛生法や消防法、道路運送車両法、船舶安全法、港則法などの各種適用法令を遵守してください。
- 製品をご使用の際は、必ず、警告ラベル、安全データシート(SDS)をご参照ください。

\*製品改良のため、仕様などを予告なしに変更することもあります。ご了承ください。

【その他、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所へお問い合わせください】

## 日本特殊塗料株式会社

### ■お問い合わせ先

- |                                    |                                 |
|------------------------------------|---------------------------------|
| 東京営業所 〒114-8584 東京都北区王子3-23-2      | ☎(03)3913-6203 FAX(03)3913-6323 |
| 神奈川営業所 〒254-8503 神奈川県平塚市長瀬1-10     | ☎(0463)23-2135 FAX(0463)23-3739 |
| 中部営業所 〒472-0006 愛知県知立市山町東並木北12     | ☎(0566)81-8111 FAX(0566)81-8124 |
| 大阪営業所 〒565-0853 大阪府吹田市春日1-4-12     | ☎(06)6386-8492 FAX(06)6338-3560 |
| 中四国営業所 〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13 | ☎(082)423-8231 FAX(082)423-8256 |
| 九州営業所 〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町江口4726  | ☎(0942)89-5766 FAX(0942)89-5762 |

●日本特殊塗料ホームページ <https://www.nttoryo.co.jp/>

塗装仕様等、使い方の詳細情報は  
こちらをご確認ください。  
設計・工事監理者および工事請負  
者は、必ずご確認ください。

